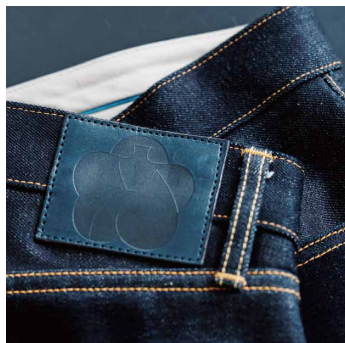


日本のものづくりの伝統を受け継ぎながら、 より洗練された「デニムメゾン」を目指して

室山 麻実

広報部広報課・PR課 課長 / 経営企画室



もっと生の声

Q & A

— 思い出に残っている出来事がありますか？

以前に東京で取材を受けた際に岡山出身の方がいて、通勤中の満員電車で弊社のブランドのジーンズを着ている人を見かけ、地元ブランドが「ここまで来たんだ」と思い、「自分も頑張ろう！」と励まされたという話を聞きました。自社のブランドが誰かを励ましたり、勇気づけたり、背中を押してくれるものになっていることが、とても誇らしく、温かい気持ちになりました。

— やりがいを感じるの、どんな時ですか？

お客様に自社製品の良さを知っていただき、喜んでいただいたり感動していただいたりしたときです。また、長きにわたり弊社のアイテムを愛用していただいている姿を拝見すると、とてもうれしく励みになっています。

— 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。

岡山は、繊維産業の集積地と言われています。ジーンズに関しては、製織、裁断、縫製、洗い、加工といった各工程を担う様々な企業が集まっています。いわば、岡山の町全体で1本のジーンズを作り上げています。互いに協力し合い、技術を高め合いながら、一企業では成しえないより品質の高いものづくりを行っています。岡山は、クリエイティブな仕事ができ、夢をかなえることができる環境だと思います。

数学の教員を目指し東京の大学に進学した室山さんは、卒業後地元に戻り大学院で数学の研究を深めますが、“ファッションが好き！”という思いを貫き、セレクトショップで販売の仕事に就きました。その後、販売の仕事でジャパンプルーの商品に関わったことがきっかけとなり、現在の会社に入社しました。入社後3年間販売を担当した後、2021年から広報担当となり、会社全体の広報から、自社オリジナルの生地や製品の広報まで行っています。販売を担当していた時に学んだ豊富な製品知識を生かし、メディアやSNSなどを通じて自社製品の価値や方向性を伝える役割を担っています。「お客様に弊社の製品の良さをより深くお伝えしたいので、日頃から各部署の担当者と積極的にコミュニケーションを取り、ジャパンプルーのものづくりの過程を学ぶように心掛けています。」

入社後に、この穏やかで自然あふれる小さな町から世界で認められるデニムやジーンズが作られていることを知り、心が震えたと話す室山さん。「この感動を忘れず、真摯な姿勢でものづくりに向きあい、日本の伝統を受け継ぎながらより洗練された“デニムメゾン”を目指していきたいです」。そう語る室山さんは、ジャパンプルーの未来を見据え、自社製品を通して日本のものづくりの素晴らしさを伝え続けます。

